

〈2〉 ≪対露経済制裁下のロシア経済・エネルギー事情≫ ＝変貌する欧州情勢＝

中央ユーラシア総合調査会 情報担当委員 杉浦 敏廣

【プロローグ／露 V. プーチン大統領の誤算とロシアの近未来】

筆者は CISTEC ジャーナル 2024 年 3 月号にて、≪対露経済制裁下のロシア経済・エネルギー事情≫と題するレポートを発表。ロシア軍によるウクライナ侵攻がロシア経済と石油・ガス産業にどのような影響を与えているか分析。筆者は、「欧米による対露経済制裁措置は効果大。欧米メジャーや石油サービス企業のロシアからの撤退はロシア石油・ガス産業を直撃し、ロシア経済の弱体化を招く」と予測しました。

その後既に半年が経過したので、本稿は前号から直近半年間の情勢変化を加味した続編の位置づけとして、最新ロシア（露）経済・エネルギー事情と 2025 年露政府予算原案概要をご報告します。

最初に本稿の結論を書きます。前号にて報告通り欧米による対露経済制裁は効果大にて、露経済は確実に弱体化しています。ロシアはウクライナ（宇）の NATO 加盟阻止を錦の御旗に軍事侵攻しましたが、長い国境線を有する隣国フィンランドが NATO に加盟し、北欧の軍事大国スウェーデンも加盟しました。

「ロシアは石油・ガス収入が潤沢にあり、対露経済制裁措置は効果ない」等と話している評論家も居ますが、ロシア経済やビジネス実態を知らない人の机上の空論にすぎません。

典型的実例が、ロシア最大の LNG プロジェクト北極圏露グィダン半島の Arctic LNG 2 です。露 LNG は対露経済制裁措置対象外でしたが、2023 年 9 月と 11 月に経済制裁措置対象リストに入りました。

同プロジェクトでは今年 2 月に LNG 初出荷予定と報じられていましたが、砕氷型 LNG 輸送船が存在せず、期首計画通りの LNG 生産・出荷は不可能です。ウクライナ戦争長期化・NATO 東進・対露経済制裁措置強化による経済疲弊等々、プーチン大統領にとりウクライナ戦争は誤算の連続となりました。

2 年前の 2 月 24 日、ロシア軍はウクライナに全面侵攻開始。2 月 24 日のロシア軍軍事侵攻の報に接し、筆者は即、102 年前の 2 月 24 日を想起した次第です。この日に何が起こったのかと申せば、ミュンヘンのビアホール Hofbräuhaus にて A. ヒトラーがナチス党（国家社会主義ドイツ労働者党）を創設（実際には改名）、25 か条綱領を発表。故に、筆者にはプーチンはヒトラーの生まれ変わりのように見えました。

この原稿を書いている 10 月 10 日、ウクライナ戦争は既に 2 年 8 カ月目（960 日目）に入っています。

右肩上がりだった露ウラル原油の油価は、ウクライナ侵攻後に暴落。ウクライナ侵攻開始後数日間で首都キエフ（現キーウ）を制圧し、親露派ヤヌコーヴィッチ傀儡政権を樹立する筈でしたが、戦争は長期化・泥沼化。ロシア経済は戦争経済に突入。露国

家財政は大幅赤字となり、ウクライナ戦争は誤算の連続。

ロシア軍もウクライナ軍も将兵は疲弊しており、兵員不足が表面化。両国民の厭戦気分も徐々に醸成されてきました。今後どのような形で停戦・終戦を迎えるのか不透明ですが、筆者は今年11月5日の米大統領選挙後に停戦交渉の動きが具体化・加速化するものと予測します。

筆者は昨年より一貫して《プーチン後継はプーチン》と主張してきました。V. プーチン大統領（72歳／1952年10月7日生）にとり、大統領職に居座ること以外の選択肢は存在しないのです。

今年2024年3月の大統領選挙で圧勝したプーチン大統領は2030年まで大統領職に居座り、理論的には更に6年間の大統領職勤務も可能です。長期独裁政権はロシア経済の弱体化を招き、ロシアの対中資源植民地化が深化して、ロシアは大きな北朝鮮になると筆者は考えております（後述）。

尚、本稿は全て筆者の個人的見解にすぎない点をここに明記しておきます。

【第1部 ロシア近況概観】

本稿では2024年3月から9月まで半年間のロシア政経情勢を概観します。

1-1. 2024年3月度概観：

上述通り、ロシア大統領選挙は予定通り3月15～17日に実施されました。

今回のロシア大統領選ではV. プーチン候補が当選することは既定路線でした。しかし、ロシア国民の圧倒的多数の支持を得て当選したと云う儀式が必要にて、それが三日間の投票日になりました。失政・誤算続きのプーチン候補は投票率7割以上、得票率8割以上、絶対得票率6割以上を目指していました。

昨今の頃はプーチン健康問題が脚光を浴びており、プーチン後継候補が盛んにマスコミで話題になっていましたが、プーチン大統領が側近を後継候補に指名するや否や彼はレームダックになります。

これが、昨年来《プーチン後継はプーチン》と筆者が主張してきた所以です。

今回の大統領選挙を一言で表現すれば、《茶番結果のための茶番台本による茶番選挙》となります。

筆者は2000年3月のプーチン候補第一回大統領選挙から、今回の5回目選挙まで具に観察してきましたが、今回ほど異常な選挙は初めてです。投票率77.5%／プーチン候補得票率87.3%／絶対得票率（投票率×得票率）67.6%となり、選挙は恙なく終了しました。

勝利の美酒も冷めぬ3月22日、ロシアの首都モスクワ郊外のCrocus City Hallにてテロ事件発生。

IS（イスラム国家）分派ホラサン州が犯行声明を出しましたが、プーチン大統領はウクライナ関与を主張しています。しかし、ウクライナ関与はありません。欧米支援を即座に失うこと確実ゆえ。

米国は事前に状況を把握しており、露情報機関にテロ発生懸念を伝達した由。これが本当であれば、ロシア側の《油断》に他ならないと考えます。

真相は藪の中ですが、米国が事前に対露警告したにも拘わらず今回のテロ事件が発生したとしたら、それはロシア国内治安機関（FSB／連邦保安庁）の怠慢に他なりません。

一方、プーチン大統領にとり「ウクライナが関与している」と主張すること以外、責任逃れの方策はありません。ですから今後も、「ウクライナが関与した」と主張し続けることでしょう。

プーチン体制は一見盤石に見えますが、今回のテロ事件は内部崩壊の前兆の可能性もあります。現状では何が真実か不透明ですが、今後、政権幹部人事異動の中に真実の姿が透けて見えてくるかもしれません。

1-2. 2024年4月度概観：

継戦能力は戦費と兵站補給如何です。

筆者は開戦当初から、「ロシア軍の継戦能力は油価次第、ウクライナ軍の継戦能力は欧米の支援次第」と主張してきました。2023年10月7日のハマスによるイスラエル攻撃により油価は上昇。プーチン大統領にとり最大の誕生日（10月7日）プレゼントになりました。

今年に入ると欧米による対ウクライナ軍事支援先細りと油価（露ウラル原油）上昇により、ウクライナ軍不利・ロシア軍有利と報じられるようになりました。

まさにそのような折、米下院は4月20日、対ウクライナ610億ドル（約9.4兆円）と対イスラエル260

億ドル（約4兆円）軍事支援法案を可決。米上院は23日に承認、バイデン大統領は24日に署名して、法案は発効。米軍は直ちに武器弾薬の輸送準備を開始。今回の米軍事支援により、ウクライナ軍はロシア軍の反攻に対抗できる可能性が高まりました。

ウクライナ軍の祖国防衛が成功すれば、言葉の真の意味において戦争は膠着状態・長期化の様相を呈することになり、《戦時経済》となったロシア経済は弱体化必至です。GDPプラス成長を以て露経済は回復していると解説している評論家も居ますが、見当違いも甚だしいと言わざるを得ません。

国家予算で武器弾薬を製造してGDPがプラス成長しても、実体経済は成長しません。太平洋戦争末期には国家予算の約9割が軍事予算になりましたが、それで日本経済は成長したのでしょうか？

ソ連邦は今から102年前の12月30日に誕生しました。《強いロシア》を標榜する旧KGB（ソ連国家保安委員会）出身のV.プーチン大統領は、2005年4月25日に発表した大統領就任第二期2回目の大統領年次教書の中で「ソ連邦崩壊は20世紀の地政学的惨事である」と述べています。

強いロシアを標榜するプーチン大統領にとり、ウクライナ戦争の長期化・泥沼化は《21世紀の地政学的惨事》になる可能性大と筆者は予測します。

1-3. 2024年5月度概観：

V.プーチン大統領は5月7日、第五期目のロシア大統領に就任。任期は2030年までの6年間です。

新大統領就任二日後は対独戦勝記念日となり、旧ソ連邦諸国は第79回対独戦勝記念日を祝いました。

小雪舞うモスクワ「赤の広場」では現地時間午前10時（日本時間午後4時）、恒例の軍事パレードが始まり、10時51分終了。昨年よりも更に小規模・短時間の軍事パレードになりました。

式典では最初にロシア国旗と「勝利の旗」が入場します。この「勝利の旗」は、1945年5月1日にベルリンのドイツ国会議事堂屋上に掲揚されたソ連邦赤旗のレプリカです。

ご参考までに、外国からの賓客は以下の通りです（順不同）；

ベラルーシ/A.ルカシェンコ大統領、キルギス/S.ジャパロフ大統領、タジク/E.ラフモン大統領、カザフ/K.トカエフ大統領、トルクメ

ン/S.ベルディムハメドフ大統領、ウズベク/ミルジヨーエフ大統領、キューバ/カネル・ベルムデス大統領、ラオス/T.シースリット国家主席、ギニア・ピサウ/エンバロ大統領

プーチン演説は約7分間の短い演説でした。趣旨は「必ず勝つ」の一言ですが、日本も言及されたのでその部分のみ訳出します。「独立を求め、日本の軍国主義に敢然と立ち向かった中国国民の勇氣」と中国を讃えています。これは5月16日の訪中を前提に習近平に媚びを売った形です。

「赤の広場」に登場した軍用車輛は約75輛。戦車は昨年同様T34一輛のみ。約9千人の将兵が軍事パレードに参加、女性士官行進の際の音楽は例年「カチューシャ」です。

日本では「カチューシャ」をロシア民謡として習いますが、これは立派な戦時歌謡曲です。

軍用車輛の最後に登場したのは、ミサイル搭載車輛。その後、赤の広場上空にはロシア国旗3色の迷彩を施したSu-35戦闘爆撃機とMiG-29戦闘機計9機が飛来。その後に3色の煙を吐きながらSu-25BM対地戦闘爆撃機6機が赤の広場上空を通過して軍事パレードは終了しました。

軍事パレード終了後、プーチン大統領と外国からの賓客は「赤の広場」から無名戦士の墓に歩いて移動。この移動の際、プーチン傍らには軍人が黒い鞆（核のボタン）を持って付き添っていました。

筆者は毎年この軍事パレードを実況中継で観ており、今年の軍事パレードの感想は下記の通りです。

- ・ギニアとラオスの元首が出席したことは、ロシアがこの地域を重視していることが分かる。
- ・歩いて移動の際、ラフモン大統領は常にプーチンの横を歩いていたが、トカエフ大統領とベルディムハメドフ大統領は少し離れて歩いており、これが国家としての立ち位置と感じた次第。ロシアでは5月14日、新内閣が正式に発足しました（後述）。

一連の儀式を終了したプーチン大統領は5月16日に訪中。プーチン新大統領就任後の初外遊となった中国訪問は、事前の予想通り《習近平の鼻息を仰ぐプーチン訪中》になりました。

1-4. 2024年6月度概観：

ロシアは懐の深い国です。皇帝ナポレオン・ボナ